



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 1 (通巻332号) 1995年1月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

1995年1月1日



理事長 海老原 熊雄

21世紀まであと5年と迫った今年はまだ戦後50年の節目を迎える年でもあります。この50年の歴史的軌跡を振り返る時、現代史上最も特筆すべきことは東西の冷戦構造の終結でありましょう。それに代わる新しい、安定した秩序に向けて様々な可能性が模索されておりますが、これらの胎動が一つの潮流として纏まり、新しい体制が確立するまでにはまだ暫く歳月を必要としているように思われます。

世界経済が市場経済システムへと一本化されつつあるなか、本年1月には世界貿易機構(WTO)が誕生しました。

このことは、世界経済が個々の国民経済の集合体であったこれ迄の基本的性格を改め、外に対して開かれた形のグローバリゼーションへ向けて歩みを開始したことを意味します。近年急速に進歩した通信・エレクトロニクス技術によって国際的な情報ネットワークが形成され、こうした経済的枠組みが一層実質の伴ったものへと発展してゆくことは確かです。

国内に目を転じますと、所謂55年体制が終焉し、円のレートが1ドル100円を突破して90円台まで上昇するなど、昨年は政治的にも、経済的にも大きな地殻変動に見舞われた年でした。

新年の挨拶 理事長 海老原熊雄…1	うちの会社 ……4	洋書輸入協会史94 ……5
海外ニュース ……2	お知らせ ……4	東京の坂と橋53 ……7
文化厚生委員会だより ゴルフ …2	総代理店ご案内 ……4	広告 ……8
文化厚生委員会だより テニス… 3		

わが国も世界の動向と軌を一にして新しい時代の幕開けを迎えていることを痛感いたします。

このようにマクロ的環境がドラスティックに変貌する中で、わが洋書業界も他の産業分野と同様に多種多様な困難に直面しております。所謂、価格破壊・出版情報のマルチメディア化・情報通信ネットワークの急展開など、更には1年後に消費税の5%引上げが予定されております。恐らく、戦後50年の我が業界の歩みの中で最も激しい変革期に立っていると思います。

『平成不況』は漸く回復基調にあると観測されてはおりますが、円高傾向が定着するなかで価格と需要が一定の相関関係を持たない洋書・外国雑誌等輸入書籍の商売は一層厳しい環境になりそうです。

海外ニュース

『ブックゾーン』：コンピュータ界に 新タイプ書店開設

コンピュータ界に『ブックゾーン』と呼ばれるインターネット上のヴァーチャル書店が登場した。ブックゾーンのサービスは24時間提供される。

ブックゾーンの社長 Mary Westheimer は「中小の出版社は流通経費や支払いスケジュールなどにより首を絞められている」と語る。'94年の11月の開設以来、ブックゾーンは1タイトルの年間掲載料・\$129を各出版社から回収している。出版社は利用客に定価で販売する。

インターネットのブックゾーンを開くと客はセルフ・ヘルプ、歴史、旅行、小説など分野に分けられ書棚を「ぶらつき」ながら、本を探すことができる。各タイトルは100語の解説文がつけられ、出版社が望めば抜粋やレビュー、推薦広告なども載せられている。

文化厚生委員会だより

第74回 72会ゴルフコンペ

高根カントリークラブ 1994.12.15(木)

師走も半ば、多忙の中、22名もの参加を得て、72会ゴルフコンペが開かれました。快晴、無風の、セーターも要らない程の絶好のゴルフ日和。これも毎回、親身になってお世話戴く幹事の東亜ブックの鶴さん、大洋交易の和田さんの心がけの良さと、気配りに依るものと、まず感謝。

この混沌とした状況のなかにあって、わが洋書業界もこれからの市場環境や世界経済の構造的変化を捉えて的確に対応することが求められていますが、先ずは会員自らが積極的に自らの体質改善と強化に取り組むことが肝要でありましょう。その上で、公正且つ自由な競争を前提として、出版社と小売・卸業者が相互に緊密に力を出し合い、市場拡大と読者が納得する洋書の商売環境を築き上げようではありませんか。また、世界の動向に目を配る一方で、少々のことでは揺るがないオーソドックスな商売を大切にすべく複眼的思想を以て、困難な時代を克服して行く自信と勇気を持つようではありませんか。

終わりに、会員各社の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

現在は未だペリカン、ノースランド、オリックス・プレスなどを含む50出版社60タイトルがオンラインに乗せられているのみである。今のところ書籍の傾向としては小説が主ということだ。

ブックゾーンは口コミと地方出版協会、電子掲示板でクライアント層を広げていっている。

ブックゾーンを利用して本を見つけた客は電子メールや電話を使い版元に注文するが、ブックゾーンでも客と版元のオーダー中継や指定の顧客サービスに応じている。ユーザーの利用の便利さを第一に考えることから、クレジットカード番号を暗号化するソフトを使用していないため、ブックゾーンではそれらの番号の安全は保証されておらず、今後の課題となりそうである。ブックゾーンは全世界の端末からアクセスが可能である。

—Publisher's Weekly '94年12月12日号より—

コースは鶴さんのホームコースで、「格調高いオーソドックスな丘陵コース」と言われる高根カントリー。ショットを曲げると、なかなか難しい。優勝はパットが好調で、チップインバーディも決められた丸善の諏訪さん。優勝候補筆頭だった大洋交易の豊泉さんは、プレッシャーがかかったと言いながらも、流石にショットもパット

も見事な出来栄で準優勝。

3位は、ドラコンも併せて取られた手堅いゴルフのユサコの和田(実)さん。久しぶりに参加のUPSの川原さんは、相変わらずの豪快なゴルフで、見事ベストグロ賞を獲得されました。表彰式に続き、優勝された諏訪さんを始め、入賞された方々のユーモアたっぷりのスピーチで、楽しい賑やかなパーティとなりました。72会コンペでの活躍は勿論、名門コースの紹介に尽力の日賀中林さん、文化厚生委員長で、今回も5位に入賞の紀伊国屋の吉本さんの、ゴルフと同様の絶妙のスピーチで、パーティは一段と盛り上がりました。最後に

「スーパーアंकル」ことゲーテ書房の村山さんの一本締で閉会となりました。(西山洋書 西山記)

成 績 表

			G	H.C	NET
優勝	諏訪 弘史(丸 善)		102	30	72
2位	豊泉 弘(大洋交易)		90	15	75
3位	和田 実(ユサコ)		97	17	80
4位	川原 孝人(U P S)		89	8	81
5位	吉本 明城(紀伊国屋)		96	14	82
ベストグロス賞	川原孝人(U P S)		89		
ドラコン賞	和田 実(ユサコ)				
"	西山久吉(西山洋書)				
ニアピン賞	大井敏夫(都文堂)、大八木 進(ユサコ)				

フォーティラブ(JBIA テニス同好会) 1994年忘年合宿送別会報告

平成6年11月26(土)/27(日)一泊二日 於:紀伊國屋書店・山中荘

- ☆ フォーティラブの1994年度最終第5回・忘年合宿行事は、晩秋の山中湖畔で、11月25日(土)の昼夜を通して開催。練習試合や忘年送別夕食会に総勢26名程の御参加を得て、大変愉しく、憶い出に残る行事として成功裡に納めることができた。
- ☆ 今回の夕食会/宿泊先として利用させて頂いた紀伊國屋書店・山中荘は、広い和室や食堂、浴室の諸設備も完備。付属テニスコート2面は、冬季は霜柱が立ち使えず、近隣の「なぎさテニスコート」3面を利用、午前9時～午後4時迄、好天に恵まれ、白熱した試合展開と相成った。
- ☆ 今回は、1995年早々にロングマン香港社長として香港に栄転されるオズボーン社長御夫妻(ロングマン・ジャパン)の送別会と忘年会も兼ねた特別行事として、幹事の村上(マイブックス)、柴田(東光堂)両氏の迅速、周到な準備手配が奏功し、多数の御参加者を迎え、1994年度全五回行事の通算で150名余の参加者を記録でき、幹事及び常連一同も感慨ひとしおであった。

- ☆ オズボーン御夫妻は、当会行事には過去3年間に5回程参加されたが、硬式テニスのキャリアと腕前は超ベテランの域。常連組の中でも、ファーストネームの愛称『ジェレミー&ローズマリー組』との試合に勝った組は、少なくとも男子組にはなかったのでは?
- ☆ 26日(土)の送別・忘年会での御別れのスピーチで、オズボーン社長は当会のテニス親睦行事の憶い出、御夫妻のテニスや日本在勤中の体験談等を語られ、感銘深い一時を過した印象が今なお強く残っている。
- ☆ 練習試合では、今回はタトルの平敷氏、洋販の鈴木、平木両氏等強打のベテラン、女性陣では皆川夫人(HBJ)、オズボーン夫人、初参加の出口夫人(マクミラン)他若手社員の方々数人も参加され、強打を競う白熱した試合続出で大変に盛り上がった。
- ☆ 1995年度初回行事は4月1日(土)頃、津久井湖畔プチビラで開催を検討中。乞御期待。

(アドバンテージ・ブレイカー W生)



日本出版貿易株式会社

「眠れる獅子」という言葉がありますが、戦前中国大陸のことを眠れる獅子の国と言った記憶があります。眠れる獅子とは、今は何ともないが眠りを覚まし立ち上がるとたいへん恐ろしい存在であるという言葉でしょう。

当社は、第二次大戦後の貿易再開に際し、いち早く海外日系取引先への出版物・雑貨の輸出ならびに洋書の輸入を再開し、わが国貿易業界にあって国際文化交流を基盤とする異色の企業として業績を挙げて参りました。さらに当社が営業を理念とする Trade Follows Books の実践として、わが国出版物の国際化のため、日本文化の英文書籍の出版と海外での販売を实行、フランクフルト書籍展示会、アメリカン・ブックセラーズ・アソシエーション (ABA) 書籍展示会を始め、海外における展示会に積極的に出展・参加し、わが国出版物の海外普及に努め、さらに国内においては、外国からの書籍、雑誌並びに関連商品の輸入に大いに活躍をして参りました。

しかしながら最近ではメディアの急速な多様化と、きびしい市場環境の中戦後いち早く外国書籍・雑誌の取扱いを開始した当時の勢いがなくなり、ややもすれば同業他社の後塵を拝しているのが現状です。眠れる獅子の眼を覚ますべく愛馬に鞭を打ち叱咤激励しております。何とか今年の干支にあやかって、せめてイノシシ（獅子）になって、猪突猛進のまね事でも出来ればと鳩首会談をしております。

ただ、猪突猛進の前に考えさせられるところもあります。昭和二、三十年代ならいざ知らず、現在の国際為替相場の状況で、かつ各社との激しい競合の中で外国書籍・雑誌を取扱い、その業績を伸ばすことに努力傾注することが果たして得策であるのかどうか。そもそも洋書の取扱いは特殊なターゲットであり、市場もその裾野は広くありません。すなわち極めて小さい、発展性の少ない市場であるにも拘らず、その洋書を取扱うにはかなりの知的能力が必要であるし、横文字を前提としている限り語学についてもそれだけの教養や経験が要求されることは確かです。さらに知的な作業だけでなく、かなりの重量もあるので肉体的労力が要求されます。それだけでなく先行投資的資金も必要であり、また激変する国際情勢の中で為替相場の読みにも絶えず神経を使わねばならず、年間契約の洋雑誌においては何をかいわんやです。このような点を考えていくと、今時のビジネスとしては効率が悪く、経営的にも営業的にも問題点が多いように思われます。

しかし、当社はこれらの悪条件に敢えて挑戦し、創業の Trade Follows Books の実践と、眠れる獅子ならぬ目覚めて咆哮一声、洋書輸入協会の一員として業界の発展と、創業五十五年の歴史をさらに21世紀に向かって一層の躍進を期して進んで行きたいと念願しております。

(社長 中林三十三)

お知らせ

先般 天皇、皇后両陛下がヨーロッパご旅行の際、フランクフルトに立ち寄られました。その折皆様お馴染みの、ドイツの書籍出版、書店業界の会頭である G. Kurtze 氏が市長始め財界の方々共々レセプションに招かれ、両陛下にご挨拶された模様がドイツ ZDF テレビニュースで放映されました。その一部を録画したビデオが協会事務所に置いてありますので、僅か1分程ですがご興味のある方は、どうぞ事務局でご覧下さい。

総代理店のご案内

(株) テクノミック

Tel. (03) 3666-2952

- 1) ORGANIC-CHEMICAL DRUGS AND THEIR SYNONYMS/4VOLS. Set
Ed. By Martin Neguer
(Akademie Verlag/VCH 1994,
ISBN 3-05-501629-7) ￥57,000 (卸70%)
- 2) DRUG ACTIONS: Basic Principles and Therapeutic Aspects
Ed. By Schafer-Korting, K. Elrood,
K. S. Estes (Medpharm Scientific Pub. 1994,
ISBN: 3-88763-021-1) ￥14,800 (卸70%)

洋書輸入協会史 (94)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

107 昭和39～40 (1964～'65) 年の米国大西洋岸港湾スト

昭和37 (1962) 年暮に行われた米国大西洋岸港湾ストは、当初はあまり問題にならなかった (JBIA 会報、Vol. 28 No. 3 1994 (平成6) 年3月号所載、協会史 No. 86 第100章の2「アメリカ港湾スト終了」の記事参照)。ところが、港湾ストの終了後にジワジワとその影響が出てきている。洋書輸入の場合困るのは、この荷物はストの影響で遅れる、或いは遅れるかもしれないということが事前に分らないことである。注文した洋書が船便で送られる場合は、B/L を見れば分るし、発送側もストにひっかからないような経路を探すであろう。しかし、郵便小包の場合の輸送経路は全く分らないといっても過言ではない。それであるから、港湾ストの影響は、延着してみても始めてそのためかなと思われることが多い。そこで今回の米国港湾ストは、理事会として当初から大きく取り上げている。

107.1 港湾スト開始の情報

昭和39 (1964) 年12月3日付、JBIA No. 196 で、協会事務局は次のように会員へ知らせている。

記

米国大西洋岸港湾ストライキについて

紐育を含む大西洋岸全港湾における港湾労働組合のストライキが、12月19日より行われる模様との情報に接しました。

これは2年毎に改訂される労働協約交渉によるものでありまして、一昨年 (注：昭和37、1962年) 12月20日より、1月30日までストが行われ、その間の滞貨が平常に復するのに其後約1ヶ月を要しておりますので、取急ぎ御通知致します。(以上)

また同年12月24日付 JBIA No. 199 では、次のように会員に知らせている。

記

12月3日付、No. 196 にてお知らせしました米国大西洋岸港湾ストライキは、その後入った情報によりますと、12月19日まではタフト・ハートレー法によって禁止され、

20日以降については労使協議の結果、1月9日までストライキは行われない事と決定しました。

また10日以降につきましても、行わない見通しが強いとのことです。(以上)

107.2 港湾ストに突入

昭和40 (1965) 年1月14日付の JBIA No. 201 では、次のように会員に知らせている。

記

先般お知らせ致しました米国大西洋岸港湾ストライキに就いて新聞の伝える処によりますと、11日にメイン州からメキシコ湾に至る大西洋岸のほぼ全域でストに突入、今回のストに対しては政府だけではなく組合指導者も反対しておりますが、一般組合員は強硬な態度を示しており、一週間後に会社再提案の議決が行われる事になっております。

その結果、ストが解決されるか続行されるかは今の処ははっきりしておりませんが、諸般の情勢により解決される見通しが強いとの事です。従って、11日から1週間はストライキが続行される模様ですでお含み置き願います。尚、その後の情報が判明次第お知らせ致します。

(以上)

107.3 港湾スト 次第に解決に向かうか?

港湾ストは何分にも米国の大西洋岸のことであり、港も多く、情報が入り乱れてどれが真相なのかが見極め難かった。この間各理事は、米国出版社から個々に情報を仕入れたり、米国の新聞・雑誌などを参照したりして情報の収集に努め、1月25日の理事会では、全体的に解決に向かっているとの判断が大勢を占めた。即ち、ニューヨークは1月21日に解決、ボストンは1月24日に解決、メキシコ湾組合は未解決である。この三者全部が解決しないと事態は動き出さなくなっているもので、25日現在は未だ動いていない。しかしニューヨーク組合が最大手なので、多分近日中に解決するだろうという判断である。

この件は、1月26日付の JBIA No. 202 で次のように会員に知らせている。

記

1月11日より大西洋岸港湾労働組合はストに突入して

おりましたが、21日夜ニューヨーク支部で、また24日にはボストン支部に於て新しい労働協約に対する賛否投票が行われました。

その結果、両支部では圧倒的多数で新労協が受託されましたが、メキシコ湾沿岸支部では現在でも新労協を拒否しておりますので、大西洋岸港湾労組の規約上、すべての地方支部が新労協を受諾しない限り、メーン州からテキサス州に及ぶ米東海岸と、メキシコ湾沿岸での就労は再開されずとの情報です。

従って未だ船舶は動いておらない模様ですが、近く解決の見通しの由。(以上)

107.4 港湾スト解決遅延

2月10日の理事会では、大手が妥結し解決間近とされているのに、ストが未だに継続され、ある大手では1月上旬のB/Lが最後で、入荷遅延が現実問題となっているなどの現状が検討された。ただし得意先への事情説明は、各社によって事情が異なるので、各社毎に対応することとした。この検討結果は2月13日付のJBIA No. 203で各社に通知されている。

記

新労働協約が提示されて以来、大多数の労組支部がこれを受諾して大勢は殆ど解決に向い、近日中に全面的終結が予想されておりましたが、マイアミ、ガルベストンの2支部では、現在でも強硬に新労協の受諾拒否を続けておりますので、相変わらず大西洋岸全域でストライキは続行されております。

しかし乍ら、新労協を受諾した北部から業務を再開するという動きもありますし、2支部を除いた全支部にて新労協が受諾されておりますので、解決も遠くないと思われます。尚、その後の情報入り次第お知らせします。〔追記〕大統領の命令により、13日より業務が再開されました。(以上)

107.5 港湾スト解決後の状況

大統領命令で業務は再開されたが、だからといって滞貨が直ちに一扫されるとは思えず、入荷遅延はこれから顕在化すると思われた。そこで各社はそれぞれ得意先への説明に心を砕いたが、某大手が得意先に2月16日付で配布したパンフレットには次のように表現されている。

記

米国大西洋岸港湾ストによる入荷遅延
のお知らせ

毎度格別のお引立に預り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、1月11日より米国大西洋岸全港において港湾労働組合のストライキが行われておりましたが、北部主要港のニューヨーク、フィラデルフィア、ボストン、バルチモアにおいては2月13日妥結、直ちに就労の運びとなりました。しかしながら正常に復するためには尚2週間の時日を要する旨の情報を得ております。

弊社といたしましても、このストによる書籍、雑誌の入荷遅延を極力回避するよう手配して参りましたが、米国のみならず欧州より米国経由の船便をも含め、2月から4月頃入荷予定のものがなお相当遅延致すものと思われます。

つきましては、お得意様各位に非常なご迷惑をおかけすることもあると存じますが、何卒上記の事情をご賢察頂き御諒承下さいますようお願い申し上げます。(以上)

昭和40(1965)年3月10日の理事会では、港湾ストは解決したものの、物流が実際に順調になるまでには相当日時を要するらしいとの話も出ている。

其の後の調査でも、33日間にわたった港湾ストは、2月末現在なお荷揚げが出来ず、港に停泊中の船は850隻にのぼり、荷役作業が平常に戻るためにはなお2ヶ月を要するであろうという事情が判明している。

107.6 港湾スト所見

アメリカの港湾ストは、既に以前より散発的に繰り返されてきていたが、このように大規模に行われ、期間も長く、後遺症も大きかったものは初めてである。

一方でスト期間中に発行されたインボイスの商品が、順調に入荷しているケースもあった。前述したようにアメリカにおける書籍・雑誌の運送の経路は、国が広いだけに千差万別であり、その上に日本のような東京集中と違って出版社の所在は全国に分布し、大陸横断鉄道も網の目のように全土を覆っているため、余計に実態の把握を困難にしている。これに加え、ヨーロッパからアメリカ経由で送られてくるものまでであるため、複雑さは更にその度を増している。

しかし、この大規模な港湾ストで、「港湾スト」の仕組みも分かり、何日ストが続くと何日後遺症が残るかということも大体の推測が出来、この後も起ってくる同種のストへの心構えが形作られたことは、大きな収穫であった。(続く)

港区の坂と文明開化〔5〕 公使館めぐり

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ミットフォードとガーター勲章の使者

北京駐在公使館員ミットフォード (Algernon Bertram Freeman-Mitford 1837-1916) は、パークスの駐日イギリス公使任命にともなって彼自身も東京の公使館員として赴任することになった。イートン校からオックスフォード大学を卒業してエリート外交官としての道を歩き出した彼は、ペテルブルクや北京の任地をへて1866(慶応2)年に東京へ転任した。わずか3年ほどの滞在で1870(明治3)年には日本を去ったが、流暢な日本語を通して得た見聞と体験を多くの著作に綴り、生涯愛し続けた日本の姿を欧米諸国に紹介した。

彼の最初の著作は、1871年に英国マクミラン社から出版した“Tales of Old Japan”であった。日本の古い話を収録した本で、その中には赤穂四十七士や鍋島化猫騒動、白井権八、佐倉宗五郎などの歴史物語、また舌きり雀や花咲爺などのおとぎ話、といった多彩な物語が盛られていて欧米で好評を博し、今日まで版を重ねている。余談になるが、明治時代に数種類の忠臣蔵が外国語に翻訳されている。『宝島』で知られるスティーヴンソンはミットフォードの本を読んだ感想の中で、「珠玉の物語『四十七浪人』」と高評したという。丸善は明治25年にディキンズ (F. V. Dickins) の英訳した“Chiushingura or The Loyal League”を刊行している。訳者のディキンズは日本に滞在していた有能な法律家であったが、日本語が非常に堪能で忠臣蔵のほかにも万葉集を英訳して評価されている。1875(明治5)年にペルーの奴隷船マリア・ルース号事件がおきた。この時のペルー政府による損害賠償訴訟は日本が直面した初めての国際裁判となったものだが、ディキンズはペルー側の弁護士として日本政府を翻弄した。彼によって日本の人身売買の実態を突かれた政府は、急速『娼妓解放令』を布告したという副産物まで生まれた事件であった。話はかわり、日露戦争の終結にあたってアメリカ大統領ルーズベルトが調停に一役買ったことは周知の話であるが、そのとき親露的なロシア駐在大使をイタリーに配転して親日的な大使をモスクワに送り込むなど、日本が交渉を有利に運べるよう細かい配慮をしている。彼が日本最良になった

のは、忠臣蔵や新渡戸稲造の“Bushido”(1899)を読んで感激したためといわれ、愛読した四十七士は“The Loyal Ronins: An Historical Romance. Tr. by Shiuichiro Saito and Edward Greey”という1880年にニューヨークのPutnam's Sonsから発行された版であった。明治期に忠臣蔵物語は、英訳に限らず、ドイツ語やフランス語にも訳されて世界の人々に読まれた。それらはすべてミットフォードの物語から派生したものといわれ、彼の『古い日本の物語』は欧米で反響を呼んだというだけでなく、大げさに言えば日本の運命を導いた物語であったということもできる。

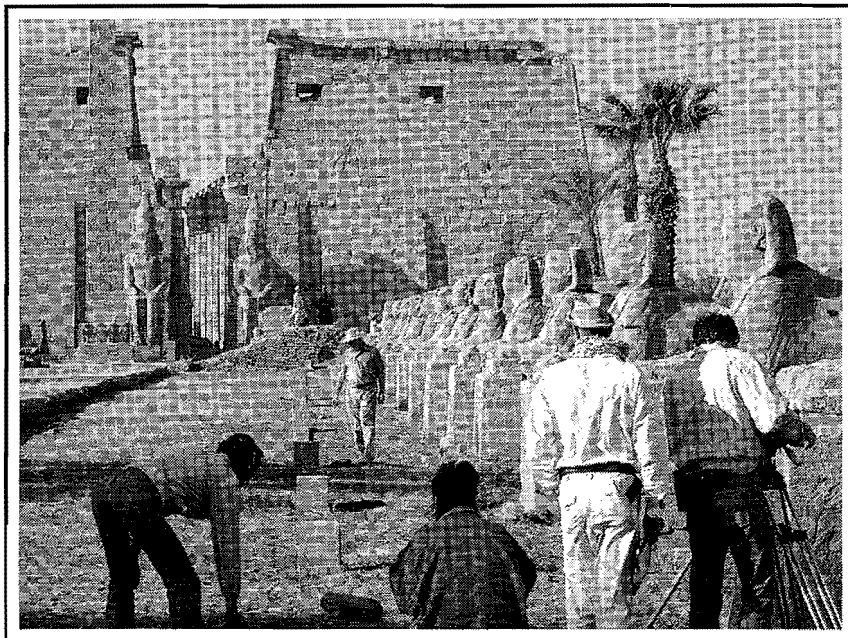
本題に戻るが、ミットフォードの主著は全2巻816ページに及ぶ大冊の『回想録』であるが、このうち日本の部分を翻訳したのが『英国外交官の見た幕末維新』(長岡祥三訳)であり、また元駐日イギリス大使コートッツィの編纂した『ある英国外交官の明治維新』(中須賀哲朗訳: 原題“Mitford's Japan”)である。この本の執筆ではアーネスト・サトウの日記を借用したため、サトウの記述と重複する箇所も見られるという。彼は日本の伝統的な風習や精神構造をこよなく愛し、この著作で日本の姿をあたたかい筆で描きだしている。

1905(明治38)年、日露戦争の講和会議の最中に第2回日英同盟協約が締結された。そして、日英関係の一層の緊密化を目的に英国皇室から明治天皇へガーター勲章が贈られることになり、1906(明治39)年に名代として国王エドワード7世の甥に当たるコンノート公アーサー殿下を派遣した。ミットフォードは、男爵位を受爵してリーズデイル卿となっていたが、使節団の首席随員として40年ぶりに日本を訪れる幸運に恵まれた。その時の見聞を“The Garter Mission to Japan”(1906)に記録するが、この著作は『英国貴族の見た明治日本』(長岡祥三訳)として日本語訳が刊行された。一行は1か月のあいだ日本各地を周遊して、国を挙げての歓迎ぶりに感激したことはもちろんであるが、ミットフォードは近代化が進みすっかり様相の変わった日本に驚きながらも、日清・日露戦争を勝ち抜いて今や列強に伍する国となったその発展振りを喜んだのであった。

人類史上最大の影響力を社会に与え続ける
「聖書」を歴史的な視点から探究する

テスタメント

新・旧約聖書



テスタメント/新・旧約聖書
TESTAMENT・THE BIBLE AND HISTORY

CHANNEL 4 INTERNATIONAL

英国チャンネル4(テレビジョン)

●各巻¥45,000 セット価格¥280,000 ●オリジナル英語音声版ビデオ 全7巻(各60分)スクリプト付

発売元 株式会社 グローバルメディア・システムズ

TEL. 03-3433-4375
FAX. 03-3437-1778

1995年1月 通巻第332号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社